



「芝川絵本とわらべうたの会」2023年度③

日時 3月23日(土) 10:00~11:30  
場所 芝川公民館 芝川子どもふれあい広場  
申込み 3月4日(月)~

親子でわらべうたや絵本の読み聞かせで楽しい時間を過ごします。小学生も大歓迎です。

事前申し込みが必要ですが、当日来ていただいても定員に余裕がある場合は参加いただけます。

市民読書サポーターのいる日程 3月

市立中央図書館 (10:00~12:00)	2日(土)	9日(土)
	16日(土)	23日(土)
西公民館	5日(火) 10:30~11:30	

小学校高学年・中学生~大人の方におすすめの本の紹介

小学校高学年から

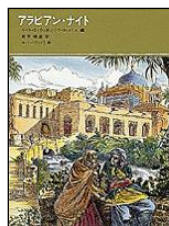


子どもに語る  
アンデルセンのお話

アンデルセン 作  
松岡享子 編  
こぐま社

アンデルセン生誕200年を記念する「おはなし会」が行われたのがきっかけとなり、この本が生まれた。アンデルセンのお話の世界に魅了された語り手や聞き手たちの、「耳から聞くと、読んだときとは違う感動があって、アンデルセンの魂に触れることができた」「この本をきっかけに、語らないまでも、子どもたちに、もっとアンデルセンのお話を声に出して読んでほしい」などの感想をもとにこの本は出版され、特に耳から聞くことで楽しめる「野の白鳥」「豆の上に寝たお姫さま」「うぐいす」など8話が載っている。

読者の希望により、よく知られたお話「みにくいアヒルの子」「マッチ売りの少女」などを加えた2冊目の『子どもに語るアンデルセンのお話2』が出ている。子どもたちにぜひ読んでやりたい。語りのテキストとしても使える。



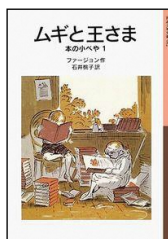
アラビアン・ナイト

ケイト・D・ウィギン/  
ノラ・A・スミス 編  
坂井晴彦 訳  
福音館書店

原典はアラビアやペルシャの人々が語りついできた物語。8世紀から16世紀にかけて260話余りが「千一夜物語」としてまとめられた。この本には8話が収められている。「アリババと四十人の盗賊の話」は、「ひらけ、ゴマ!」となえると岩戸が開き、中には盗賊団の宝物がある。「アラディンと魔法のランプ」は、ランプをこすると魔物が現れ、願いを叶えてくれる。「船乗りシンドバッドの物語」は、貿易船が難破し、着いた島にはダイヤモンドの谷がある。他に「ものいう鳥と歌う木と金の水」など、どの話も奇想天外、摩訶不思議なできごとがおきる。

絵本やダイジェスト本が出ているが、格調を保ちながらもわかりやすい訳文と、異文化の香り高いみごとな挿し絵のこの本で、物語の世界を細部まで楽しんでほしい。

中学生~大人の方に



ムギと王さま  
本の小べや1

ファージョン 作  
石井桃子 訳  
岩波少年文庫



天国を出ていく  
本の小べや2

第一回国際アンデルセン賞受賞作家の自選による珠玉の短編集。  
表題作「ムギと王さま」は、お人よしのウィリー少年が語る「エジプトの王さまとぼくのおとうさんの育てたムギと、どちらが金色か?」という話。ほかに、親孝行で動物好きな貧しい木こりの若者と王女さまのつましやかな恋を描いた「レモン色の子犬」など。「天国を出ていく」は、妖婆の誘いによって天国を出て行った兄さんたちを末の王子が連れ戻しに行く話。他に「小さいお嬢さまのバラ」など。この2冊は、もとはファージョンが晩年に27編を自選して編んだ「本の小べや」として出版されたもの。  
内容は、昔話風のもの、寓話風のもの、リアルな子ども世界を描いたものなどさまざまだが、どの話でもファージョンは、読者が親しみを持てる人物や題材を生かして、愛、幸せ、真実などの人生における普遍的な問題を扱っていて味わい深い。